



図版 1. 背負い梯子
【トオジンガルイ (唐人軽)】 | 宮崎県

会場：
武蔵野美術大学13号館2階
民俗資料室ギャラリー

会期：
2021年10月25日(月)
— 12月18日(土)

開室時間：10:00-17:00

休室日：水・日曜日

ただし11月3日(水・祝)は開室

入場料：無料

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館

※一般(学外)来場者は完全予約制。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、
会期等を変更する場合があります。

最新情報はwebサイトでご確認ください。

武蔵野美術大学 美術館・図書館では、民俗資料室ギャラリー展示29「運ぶ——文化とかたち」を開催いたします。

民俗学者・宮本常一(1907-1981、1965-1977本学教授)は、機械以前の道具＝民具を人間の動作を助けるものと考え、その造形が身体の構造や人、地域それぞれの文化に影響されていることに着目しました。本展のテーマ「運ぶ」は人にとって基本的な動作の一つです。その方法や用いる道具も、荷物の違いはもちろん性別・地形・気候・移動距離など様々な条件に合わせて選択されます。とりわけ、高度成長期以前においては人力に頼ることが多く、運搬方法の選択や道具づくりには知恵が求められました。一見素朴な道具も、素材や身体に合わせた細部の加工からは、現在と異なる自然との向き合い方、美意識も読み取ることができます。

本展では、荷物を支える頭・肩・背・腰・手という身体の部位ごとに運搬道具を紹介し、日頃人々が意識することのない道具の造形と動作との関係を見つめ直します。

[同時期開催]

・「牧野良三——舞台美術における伝達と表現」 2021年11月29日(月)–12月18日(火)

民俗資料室について

本学で民俗学を教えていた宮本常一教授の指導により全国から収集された資料が、民俗資料室のコレクションの始まりです。主に第二次世界大戦前から高度経済成長期までの間に人々が自然素材を使って暮らしの中で生み出し、使い続けてきた民俗資料(いわゆる民具)を約9万点収集しています。今では新素材に置き換えられるなど、時代とともに失われつつある民俗資料を通して当時の生活文化を紹介する展覧会を年1、2回開催しています。



図版2. 頭かけ背負い籠 | 鹿児島県



図版3. 腰籠 (テル) | 鹿児島県



図版4. 酒筒 (酒入れ) | 鹿児島県



図版5. 風呂敷 | 広島県



図版6. 蓑 (コラミノ・ツギミ) | 宮城県



図版7. 天秤棒で運ぶ女性 | 京都府 (撮影: 須藤功)

図版1~6は武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室 所蔵

お問い合わせ先:

武蔵野美術大学 美術館・図書館
東京都小平市小川町 1-736
phone: 042-342-6003
fax: 042-342-6451
<https://mauml.musabi.ac.jp>

広報担当

mail: prmsm@musabi.ac.jp

プレス用図版をご希望の方へ:

- ・下記の注意点をご参照の上、ご希望の図版番号と、必要事項をEメールにてお知らせください。(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・希望図版が1点のみの場合は、図版1. 背負い梯子をお送りします。
2点以上の場合は、図版1. 背負い梯子+ご希望の図版をお送りします。
- ・図版を使用する場合は、指定のキャプションを必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せをご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等で原稿をお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURLお知らせをお願いします。